



琉球大学_{案内} 教育学部_{案内} 2021

目次

琉球大学千原キャンパス	3
教育学部施設紹介 おすすめスポット	5
おしゃべり 学部長×学生	7
教育学部の概要	9
カリキュラム・取得可能な免許等	11
学校教育教員養成課程	12
教育実習	13
専修紹介	
教育実践学専修	17
子ども教育開発専修	18
国語教育専修	19
社会科教育専修	20
数学教育専修	21
理科教育専修	22
音楽教育専修	23
美術教育専修	24
保健体育専修	25
技術教育専修	26
生活科学教育専修	27
英語教育専修	28
特別支援教育専修	29
Q&A	31
北海道教育大学釧路校との交換留学制度	33
卒業後、さらに学びたい・免許を取得したい方へ	35
受験生のみなさんへ（卒業生からのメッセージ）	36

機械・工具が揃うものラボ
工学部所属の学生さんたちなら、さまざまな機械・工具を自由に活用できる施設があるんだよ。楽しそう！

学内にあるさまざまな史跡
特に農学部敷地内には按司墓、五連墓、イシグスク、ボージウシューヌカーなどの史跡が多く存在するのよ。

リニューアルした図書館
本を読むシーサーがお出迎えしてくれるわよ。図書館職員コラム「きじむんのどう〜ちゅいむに〜」は、琉大のいろんなトピックが紹介されていて、ジワジワくる面白さ♪

日時計をさがしてみよう！
真理と正義と平和を愛する青年達が世界へ羽ばたいていくようにと願いがこめられた日時計があるのよ！

このエリアが教育学部です！

入口は3カ所。信号も？！
大学内に入る入口は3カ所あります。ループ道路には信号もあります。車を運転するときは速度を守ってね。

アタシの名前は**バタリ**
教育学部のモモタマナの樹がすみかよ。夜行性だから、夜のおさんぽをしながら、学内をパトロールするの。琉球大学はいろんな動植物が共存していて、居心地がいいわ♡



ぼくの名前は**キジモン**！
学内にあるガジュマルの樹をすみかにしているよ。ときどき学生の姿に変装して、授業に参加するのが楽しみなんだ。赤毛の男の子がいたらぼくかもよ。

千原馬場、果樹園跡地
乗り手の振る舞いや馬具の華やかさなども競い合った琉球競馬が行なわれた馬場。その跡地のすぐ近くは、かつて果樹園が広がっていたんだって！

琉大の博物館「風樹館」は必見！
沖縄の自然や歴史・文化に関する収蔵品が17万点。動植物にとっても詳しい先生もいるんだぞ。いろんな動植物が観察できるジオトープもあって、無料で誰でも見学ができるから、一度は足を運んでみるといいぞ！！

かつて川だった千原池！
広大な敷地を誇る琉球大学は、緑がとても豊かで千原池と言われる人工池もあるんだぞ。この大きな池は、かつては川だったんだぞ。千原池にはたくさんの鳥がやってくるぞ。大きなドングリが実るオキナワウラジロガシやイジュ、ヤマモモも見られるんだぞ。

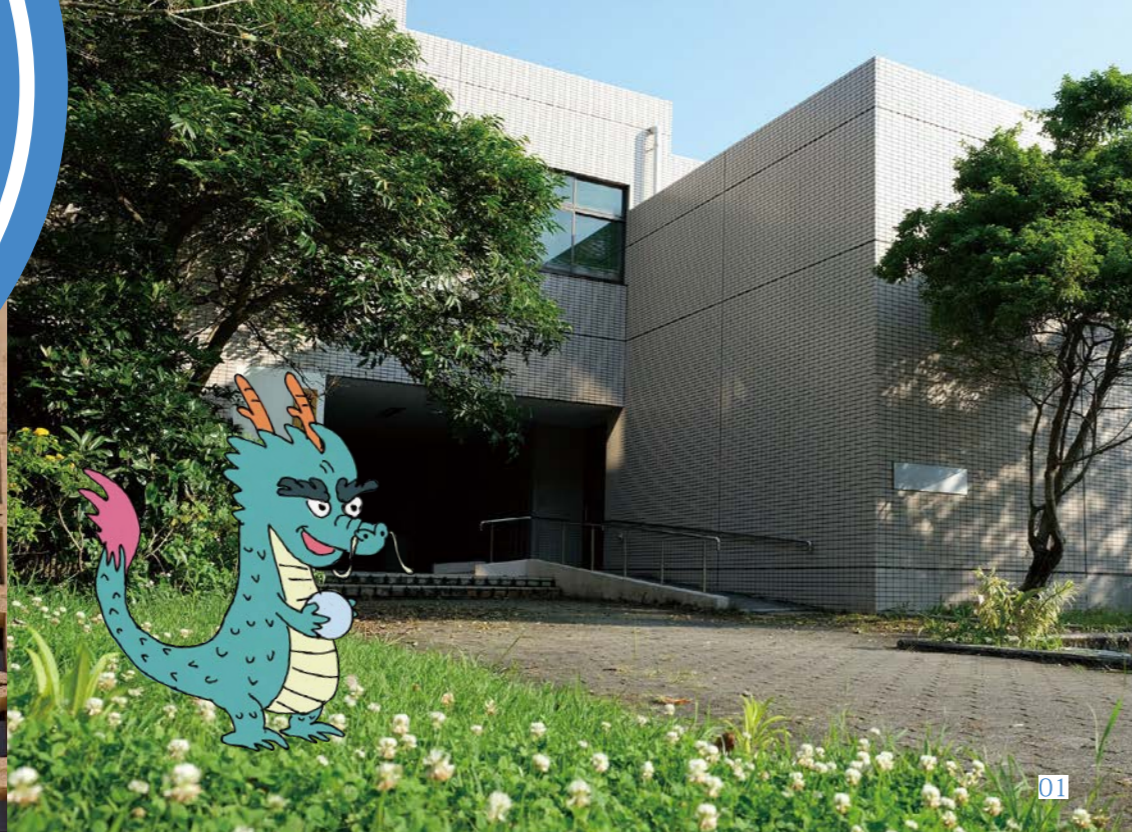
わしの名前は**リュウソウ**。
千原池がすみかだぞ。池には、夏になるとホタルがやってきて、とてもにぎやかだぞ。球陽橋をわたる学生たちがキャンパスライフを楽しんでいる様子を眺めるのが楽しみだぞ。



つぎは、教育学部のおすすめスポットをご紹介します！

琉球大学は、沖縄が日本本土復帰する前の1950年に首里城跡（今の沖縄県立芸術大学の場所）に開学しました。首里城復元事業が本格化したことを受け、現在の「千原キャンパス」「上原キャンパス」に移転。農学部の農場も含めると、両キャンパスをあわせた敷地はなんと、1,262,785㎡にもなります。教育学部がある千原キャンパスは、宜野湾市、中城村、西原町の三市町村にまたがります。3カ所（通称：北口、東口、南口）の入口があり、通称「ループ道路」と言われる周回道路と信号機も備えられています。教育学部は、大きな千原池を挟んで南側に位置し、隣には人文社会学部・国際地域創造学部があります。池の北側には、工学部と農学部、東側には理学部、共通教育棟、図書館、中央食堂等があります。元々は、中城村津覇集落があった場所なので、大学敷地内にはさまざまな史跡や拝所なども残っています。本ページでは、琉球大学に潜むキャラクターたちが、魅力的な施設やおすすめスポットを紹介してくれます。琉球大学にあるたくさんの謎を楽しみつつ、お散歩したり見学したりして、それぞれのおすすめスポットを見つけてみてくださいね！

教育学部
施設紹介
おすすめ
スポット



01



03



06



04



07



02(a)



02(b)



05



08

01: 教育実践棟

教育学部正面玄関の真向かいにある建物で、琉球大学全体の教職課程（教員免許取得カリキュラム）に関わる先生たちの研究室があるぞ。1階には広い教室があって、教職関係の授業や教員採用試験対策の各種セミナーなどで使用されることも多く、教育学部生は本当によくお世話になるんだぞ。

02: 琉球大学教育学部附属小学校 (a)・中学校 (b)

地元では「りゅうふ」の愛称で呼ばれているぞ。教育学部から徒歩5分かかる所に行ける附属学校は、全国でも珍しいそうだ。ここで3年次の夏に行う教育実習は、教育学部生にとって4年間の最大の山場かもしれない。実習だけでなく、普段の授業

でも参観に行ったり各種研究会に参加したり、馴染みの深い場所なんだぞ。

03: ビニールハウス

メロン、菊、玉ねぎ、ジャガイモなど、いろんな食物を育てる栽培実習で活用されているよ。さあ、どこにあるでしょうか？探してみてくださいね！！

04: 技術教育棟

『木材加工実習室』『金属加工実習室』『電気実験室』など、さまざまな加工実習を行うための部屋があるよ。

05: 音楽棟

大人数での音楽関連授業や活動に適した『演奏室』や一人一台電子ピアノが使える『ミュージックラボラトリー』などがある施設だよ！

06: 工芸棟

穏やかな時間が流れる工芸棟。織機・道具類が並ぶ「織室」、染め実習を行う『染室』。施設周囲では、染色に使われる植物の栽培もしているよ。

07: 彫刻・陶芸棟

『彫刻室』と『陶芸室』に分かれている彫刻・陶芸棟。表現が

多様化している現代、さまざまな制作活動がここでは行われているんだよ！！

08: モモタマナの樹

教育学部のシンボリックな存在のモモタマナの樹。学生さんたちの待ち合わせの場所にもなっているよ。みんなで集まってお話ししながらお昼ご飯を食べたり、困ったり迷ったときにここに来る学生さんもいるんだって。夜になると、私たちも集まっておしゃべりしたりディナーをしたりしているわ。



今年度、学部長に就任した萩野敦子先生が、教育学部について気になるあれこれを、2人の在學生にインタビュー！最初は緊張気味だったいづみさんとひろきさんでしたが、率直なことばでいろいろ語ってくれました。



なぜ琉球大学教育学部に？

はぎの：今日は、二人に学生の目線で、教育学部や学生生活について語ってほしいと思います。まずは、4年前の記憶をたどって、琉球大学教育学部を選んだ理由を教えてください。

いづみ：数学教師になりたくて、教育学部の数学教育専修と理学部とで迷いました。でも教員は教育の専門家なので、教科書以外のことを求められているのかなと思って教育学部を選びました。あとは沖縄が好きだから、琉球大学でと。

ひろき：友だちに勉強を教えるのが好きで、高校時代に教師に自分の将来の夢として絞りました。県外の教育学部に進学する友達もいたけど、自分は沖縄で教師になりたいという考えがとても強かった。県内出身だからこそ、課外活動で沖縄の子もたちと関わりやすいだろうとも思って。

どんな授業が面白かった？

はぎの：教育学部で特に印象に残っている授業はありますか？

いづみ：2年生で受けた「幾何学序論」です。座学もあったんですけど、学んだ中から自分で選んで研究を深めて、最後に発表するんです。仲間に伝えるために深く勉強しなければならないので、教師の仕事ってこういうことなのかな、実体験しながら教えるということを学んでいるのかなって思ったのが、印象に残っています。

はぎの：専門的な知識を学びつつ、それを使って自分はどうか教えるかっていう方に行くというのが教育学部の良いところですね。

ひろき：私も2年生の授業なんですけど、専修必修の科目「子ども学フィールドワーク」です。20人の受講生が、北玉小学校の日本語教室、西原町の図書館、宜野湾市のポケット保育園の3つのフィールドに分かれて実践を行います。私は保育園で、体育遊びを提案するっていうテーマに取り組みました。ボールを投げ入れるゴール「ホイホイくん」という遊び道具を段ボールでつくったんですが、7人チームだったんですけど、意見の食い違いもあってめちゃくちゃケンカもした(笑)。でも、最終的に実践が終わったときに頑張ったねって言い合えました。子どもたちも「ホイホイくんちょうだい！」って言うてくれて。
はぎの：実践を通して子どもの成長段階を学んだんだね。二人とも2年生の授業が3年生以降の学びの深化に結びついていったんでしょうね。

授業以外の活動の思い出

はぎの：次は、授業以外の活動で印象に残っていることがあれば、聞かせてください。

いづみ：1年次から3年間続けた「コックさん学校」(※1)。子どもと関わりたいという気持ちがあったところに、先輩から誘われて入りました。「コックさん学校」の魅力は、2ヶ月間の活動期間に子どものいろんな変化が見られること。最後の卒業式は感動です。それに、先輩方や先生方から教わりながら試行錯誤して作り上げた授業を、子どもたちの反応も楽しみながら実践するんですが、授業後の反省会でさらにブラッシュアップするっていうのが、自分の成長にもなると思います。

はぎの：これは14年続いているプロジェクトなんですよ。弘樹さんは、どうですか？

ひろき：在学中に海外に出て何かできたらいいなと考えていたので、「SPL EA (スプリー)」(※2)に誘われたとき、すぐに飛びつきました。ラオスに行って、現地で運動会を3~4校分くらい企画したんですよ。子どもたちと一緒に綱引きをしたりリレーの勝負をしたり。運動会って日本の学校の文化を持っていったわけだけど、子どもたちも楽しく活動できて、子どもって世界中どこに行っても変わらないなって勉強になりました。活動外では、道端で物乞いをしている人に会ったり「喉が渇いて苦しい、助けてください」っていう人に会ったりして、日本ではない経験をしました。せっかくこういう経験をしたんだから、自分が教員になったときに子どもたちに、世界にはこういう生活をしている人たちもいるんだってことをしっかり伝えて、何か自分たちにもできることはないか考えてみようって伝えたいです。

はぎの：自分の経験があるから、具体的な国際交流のありようを、子どもたちと考えられますね。

教育学部の雰囲気は？

はぎの：教育学部の先生や学生、あるいは事務の方たちの雰囲気などは、どうですか？

ひろき：先生たちは、個性的な人が多いなって印象がとてもあって面白い。学生は、みんなで頑張ろうっていう意識がとても強くて、授業疲れたな、行きたくないなっていう時も、必ず誰かが支えてくれます。

いづみ：数学教育専修は少人数ということもあって、横は人数が少ない分結束力が強いし、上下もつながりが強くて、運動会とかスポーツ大会とかいろんなイベントも毎年やっています。先輩とも話しやすい、教えてもらいやすい雰囲気です。

ひろき：それから、いろいろな実習は事務の方々がいるおかげでできることなので、感謝しています。授業に関することや大学生活に関するあれこれを情報発信してくれるし、コロナの時

にも必要な情報をすぐに通知してくれるので、事務の皆さんは学生にとって必要不可欠という感じです。

いづみ：大学の先生も附属学校の先生も、私自身が見えていなかった出来ているところ、良いところっていうのをすごく見ていて、褒めてくださるのが、嬉しくて。もちろん逆に弱い部分、苦手としている部分も教えてください、さらにアドバイスをくださるっていうのが、とっても手厚いなって印象です。高校生のころは、結構大学ってドライなイメージがあったんですけど、入ってみると違いました！

教育学部をめざす人へのメッセージ

はぎの：二人からぜひ、琉球大学教育学部を目指す皆さんへのメッセージを発信してほしいです。

ひろき：自分が大学に入ったら絶対何かやるっていうのを決めておく。自分はボランティアとかには積極的に参加しようと思ってアンテナを張っておく気持ちで入ってきたら、いろんな情報が落ちていたので、キャッチして学びに持ってきました。おかげで、楽しい大学生活になっています。

いづみ：大学生って挑戦できる期間だから、チャンスを逃さないっていうのが大事。私が偶然の出会いでいろんな活動をさせてもらってるのも、チャンスを逃さないっていうのをテーマにずっと持ってたからこそです。

はぎの：二人は同じ気持ちを持っているってことだね。そういう気持ちを持っていれば、琉球大学教育学部で充実した4年間を過ごせますね。今日はいろいろな話を聞かせてくれて、ありがとうございました。

※1：琉球大学教育学部の学生が毎年20名弱集まって、近隣小学校の児童を対象に行っている模擬学校。「国」語と「算」数を楽しく学ぶので「コックさん」。

※2：団体名「the Association of Sports and Physical Literacy Education for All」の略称。その中に、全国13大学の学生が集う「国際教育協力学生ボランティアズ」があり、琉球大学の学生も2018年度から参加している。



萩野敦子先生
教育学部学部長

宮城いづみさん
数学教育専修4年
(普天間高校出身)

知念弘樹さん
子ども教育開発専修4年
(向陽高校出身)

本記事は、実際の対談記事のダイジェストです。参加者の発言を、一部カットしたり、卒業研究や教育学部の課題などを取り上げたパラグラフを省略したりしています。インタビュー全文を読みたい方は、HPで掲載していますので、こちらからご覧ください。

※新型コロナウイルス感染予防のため、三密を避け、距離を取りながら校舎の周りを散策して撮影しました。(インタビュー時はマスクを着用)



教育学部の概要

●教育学部の学部理念

沖縄唯一の教員養成を目的とする学部として、教科に関する知識やカリキュラムを構成する力に支えられた授業力と、他者と対話しながら教育課題に向き合っ学びの場をコーディネートする力を、関連諸分野の学修・研究および多様な現場実践を通して習得させることにより、(a) 子どもと教育に関する臨床的課題に気づき、その解決に取り組める教員、(b) 学校の内外で、そして、学校教育の一貫性を見据えて総合的に連携・協働に取り組める教員、(c) 学習指導と生活指導を両輪とする実践力のある教員、の養成を行います。

教員の養成においては、上記のような教員に備わる高い専門性の獲得を目標としており、具体的には、

- (1) 教職の倫理と哲学
- (2) 専門職能形成としての自己教育力
- (3) 子ども、学校、地域社会を捉える幅広い教育的視野と素養
- (4) 子ども、学校、地域社会の臨床的理解に基づく教育の構想力
- (5) 獲得・創造した知識を有機的に結びつけ教育実践において総合化する力
- (6) 専門性に応じた関与とコミュニケーションの力
- (7) 学校教育に関わる<ヒト・モノ・コト>のコーディネート能力
- (8) 子どもに寄り添い、学びと育ちを支える力、の資質・能力の獲得

を目指します。

●アドミッションポリシー（教育学部が求める学生像）

学校教育教員養成課程では、教育という営みの本質を学びつつ、主として学校教育に関わる今日的な問題に真剣に取り組もうとする、次のような人材を求めています。

- (1) 教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていきいたい人
- (2) 教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人
- (3) 高等学校での基礎学力を身につけ、思考力、判断力、表現力を持つ人
- (4) 沖縄の歴史的・地理的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育活動に携わりたい人

●募集人員

学部	課程	入学定員(名)	募集人員(名)					
			一般選抜	総合型選抜			帰国子女	私費外国人
				前期日程	大学入学共通テストを課さない	大学入学共通テストを課さない		
教育学部	学校教育専攻	小学校教育コース	35	5		10		
			25			2		
						2		
						2		
						2		
						2		
						2		
						2		
						2		
						2		
						2		
						2		
						2		
			2					
	学校教育専攻	中学校教育コース	4					
			3					
			5					
			5					
			3				若干名	
			3					
2				1		若干名		
3								
特別支援教育専攻	特別支援教育専攻	2		1 英語重視				
		8			2			
計		140	101	5	2	32		

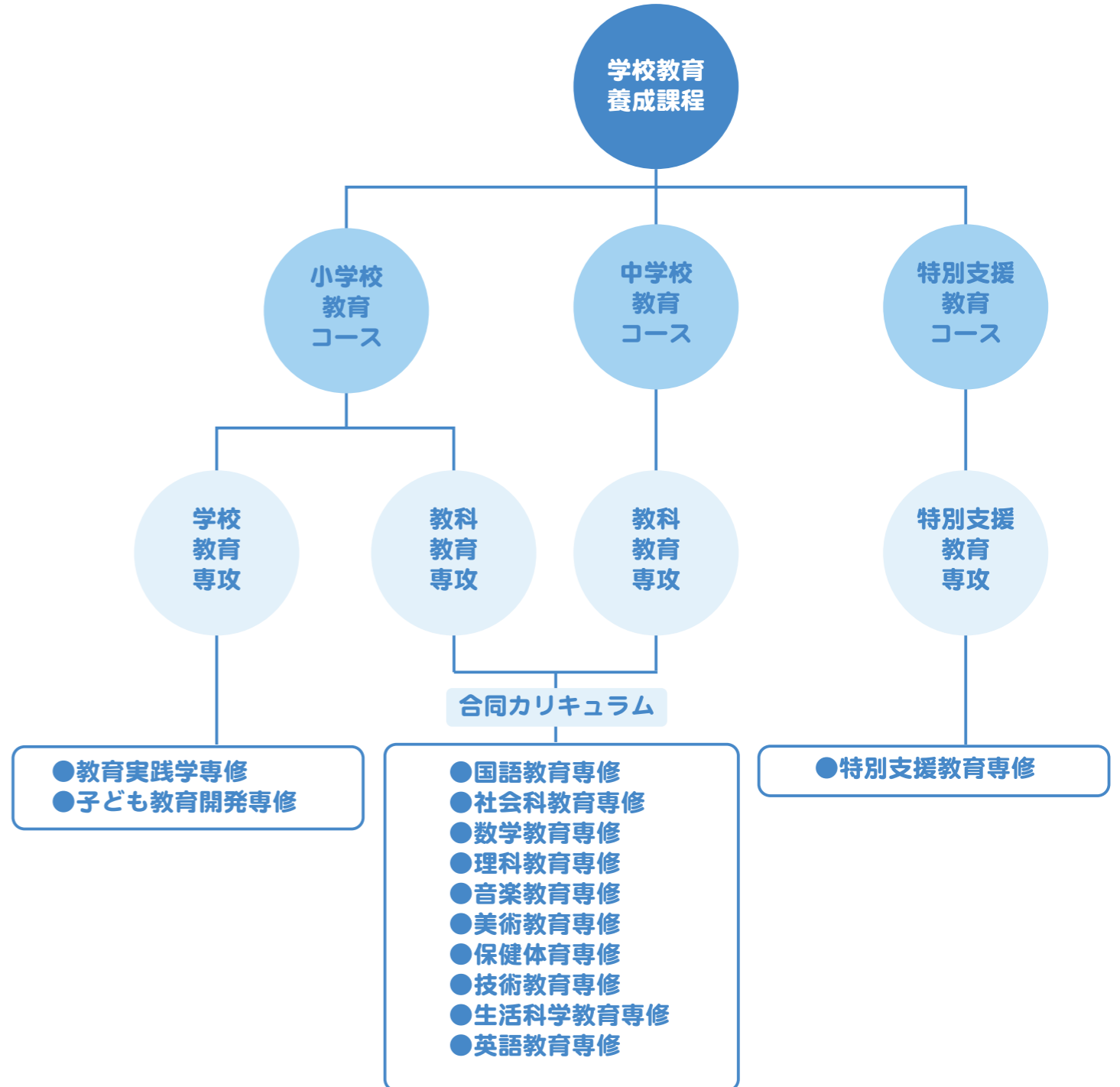
●教育学部の構成

教育学部は、高等教育機関であると同時に教員養成機関です。高等教育機関としては、学士（教育学）という学位を取得する「学士課程」を編成しています。教員養成機関としては、小学校教諭、中学校教諭および特別支援学校教諭の一種免許を取得可能な「教職課程」を中心に編成しています。両「課程」の修了に必要な授業科目が重なっているのが、教育学部の最大の特徴です。

また、本学部は、下記のとおり3つのコースと4つの専攻で構成されています。

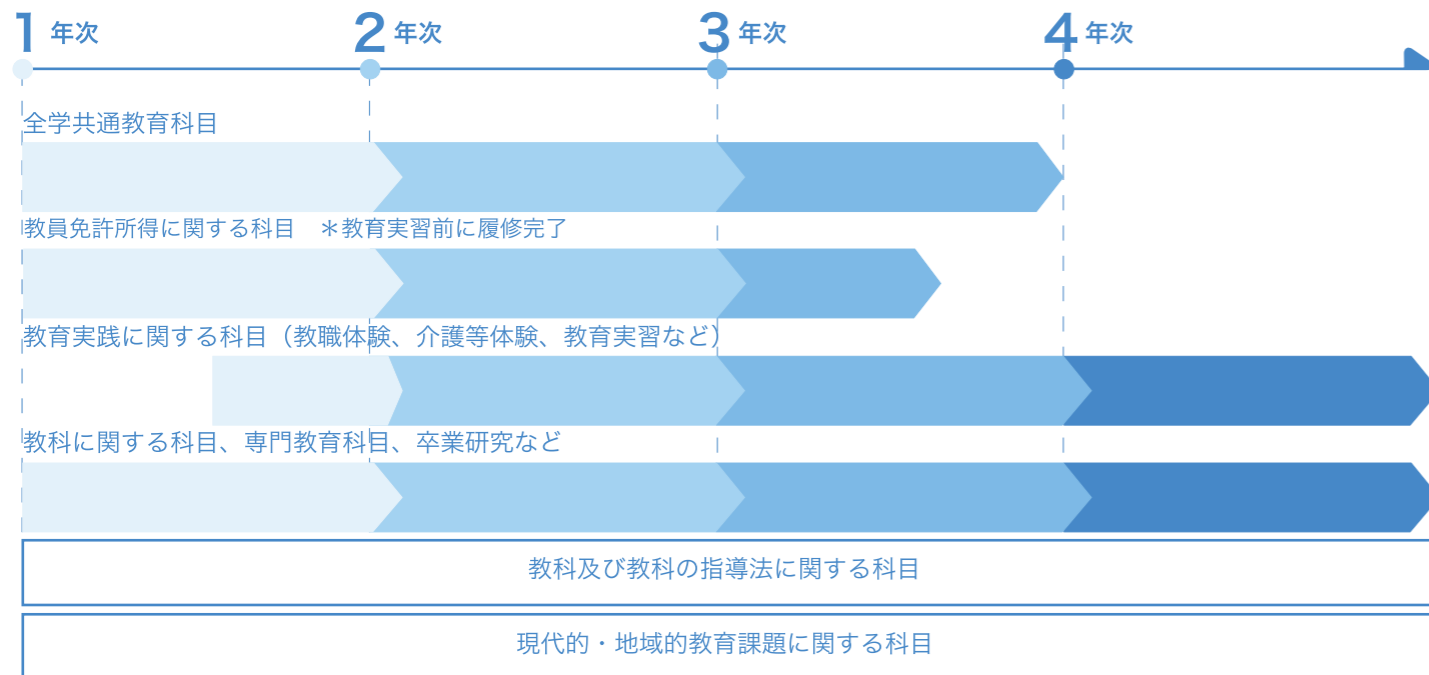
入試では小学校教育コース、中学校教育コース、特別支援教育コースに分かれていますが、小学校教育と中学校教育それぞれの教科教育専攻は、教科ごとの合同カリキュラムを組んでいて、入学後は両方の学生と一緒に4年間学んでいきます。

また、学校教育専攻は1年次では同じカリキュラムで学び、2年次からは二つの専修に分かれ、残りの3年間はそれぞれのカリキュラムで学びます。



カリキュラムについて

小学校、中学校、特別支援学校などさまざまな教育現場が抱える多様な課題、また島嶼的地域特性や平和共生など沖縄ならではの教育課題とも誠実に向き合い、協働しつつ学び続けることができる教師や教育分野のスペシャリストの養成をしています。



コース別取得可能免許状等について

小学校教育コース (学校教育専攻、教科教育専攻)

小学校教育コースでは、卒業単位を取得すること(卒業)により、小学校教諭一種の教員免許状が取得できます。さらに、卒業単位の取得に加えて必要な科目の取得により、中学校教諭一種、高等学校教諭一種、幼稚園教諭一種、特別支援学校教諭一種の教員免許状が取得可能です。教科教育専攻では、それぞれの教科の中学校教諭一種、高等学校教諭一種がよく取得されています。また、学校教育専攻では、幼稚園教諭一種もよく取得されています。

中学校教育コース (教科教育専攻)

中学校教育コースでは、卒業単位を取得すること(卒業)により、それぞれの教科の中学校教諭一種が取得できます。基本的にそれぞれの教科の高等学校教諭一種の教員免許状も取得できますが、地理歴史、公民、工芸、工業の各免許については、卒業単位の取得に加えて必要な科目の取得が必要です。さらに、卒業単位の取得に加えて必要な科目の取得により、小学校教諭一種、幼稚園教諭一種、特別支援学校教諭一種の教員免許状も取得可能です。

特別支援教育コース (特別支援教育専攻)

特別支援教育コースでは、卒業単位を取得すること(卒業)により、小学校教諭一種、または中学校教諭一種のどちらか(基礎資格)と、特別支援学校教諭一種の教員免許状が取得できます。さらに、卒業単位の取得に加えて、必要な科目の取得により、基礎資格以外の小学校教諭一種、または中学校教諭一種と、高等学校教諭一種、幼稚園教諭一種の教員免許状が取得可能です。

※取得可能な資格については、全コースにおいて、卒業単位の取得に加えて必要な科目の取得により、学校図書館司書教諭の資格取得が可能です。また、美術教育専修において、卒業単位の取得に加えて必要な科目の取得により、博物館学芸員の資格取得も可能です。

詳細は学部 HP よりご確認ください→



学校教育教員養成課程について

●子どもの学びと育ちを支える学校教員の養成

琉球大学教育学部は、沖縄県内唯一の教員養成を目的とする学部であり、附属小学校、附属中学校を附属施設としてもち、子ども理解を基礎として、生活面での指導、教科指導ができる実践的な学校教員を育成しています。

さまざまな子どものニーズに対応する力量の形成のために、体験的に子どもを理解する機会を多様かつ系統的に提供し、4年間で教員としての専門性と実践力を身に付けるカリキュラムを提供しています。

●小・中・高校等の複数の教員免許状取得が可能

4年間のカリキュラムにより、小学校教育コースは小学校教諭、中学校教育コースは中学校教諭、特別支援教育コースは特別支援学校教諭の免許取得ができますが、卒業単位の取得に加えて必要な科目の取得により、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教諭の一種免許状も取得できます。

複数の免許取得のための学びにより、児童生徒の発達/成長段階を視野に入れながら「いま、付けたい力」を意識した生活面や教科の指導の力量が育まれます。



教育実習について

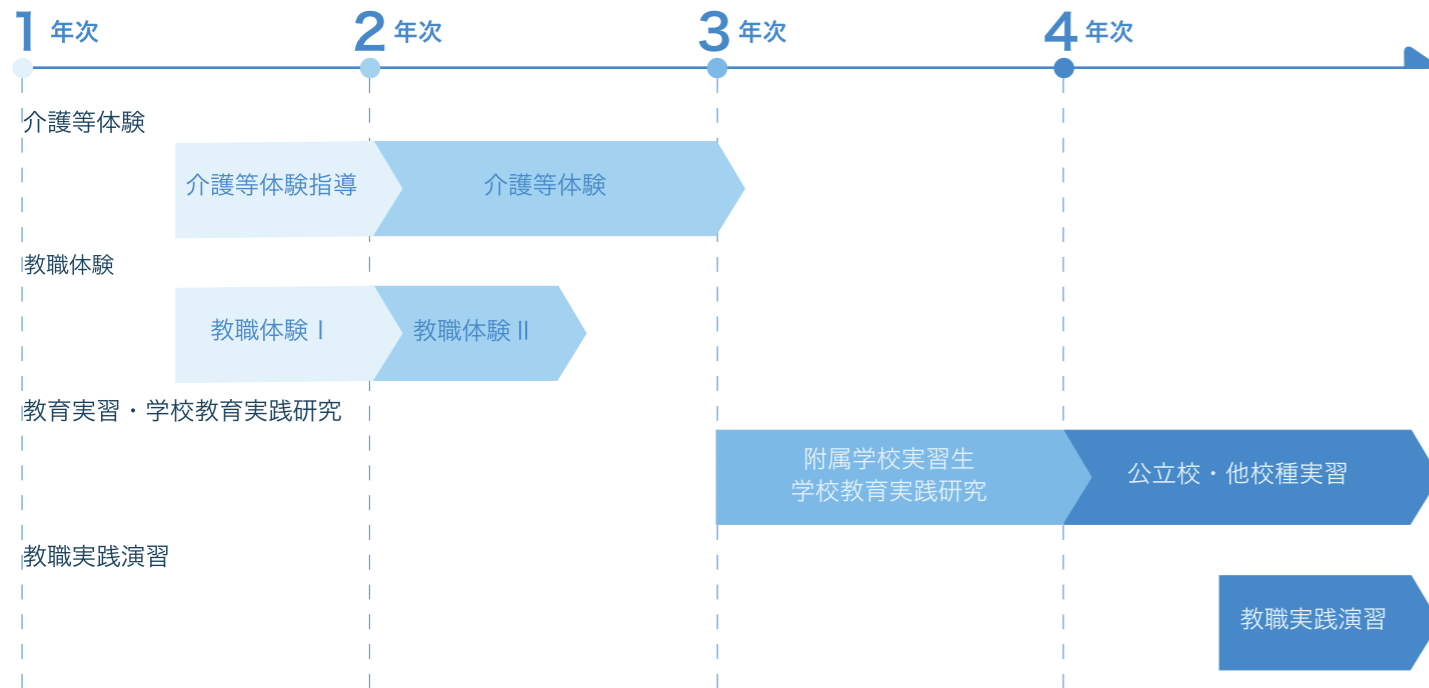
●教育実習のながれ

下図が、教育学部4年間で学生が経験する主な教育実習系科目です。

メインとなるのは、3年次の8月から9月に3～4週間かけて行われる「附属学校実習」です。4月から学級観察や模擬授業が始まり、実習終了後もリフレクションが行われるなど、1年間かけてじっくり学校教員としてのスキルを磨きます。

それ以前の1・2年次にも「教職体験Ⅰ・Ⅱ」（専修によっては別の科目で代替する場合があります）で、授業参観したり先生方を手伝ったりする機会があるなど、多くの現場体験を積めるのが教育学部のカリキュラムの特徴です。

2年次の「介護等体験」および1年次の「介護等体験指導」では、各種社会施設や特別支援学校における、さまざまな支援を必要とする多様な人々との関わり方を学び、4年次の「教職実践演習」では4年間の総括を行うなど、実習系科目の積み上げによって、確かな教育実践力を育む仕組みとなっています。



●教育実習委員長からのコメント

琉球大学教育学部は、教育実習に関して大変恵まれた環境です。大学構内に附属小学校や附属中学校があり、そこで教育学部学生全員が必修の教育実習を行います。このような教員養成課程を持つ大学は決して多くはありません。そのため、児童生徒とは、教育実習期間だけでなく、その事前や事後も授業や学校行事等で関わるすることができます。

附属学校の経験豊かな先生方が、教員を目指す後輩たちを育てる事を使命とし、真摯に学生と向き合い指導します。授業の機会を得るばかりではなく、教育や子どもの現実の姿、教師としての生き方などに触れてみる機会であり、更には学生個人々が、自分自身の能力や適性を問い直してみる機会ともなります。

皆さんのチャレンジをお待ちしています。



●附属学校実習を通して（在学生アンケートより）

Q.1 附属学校実習を通して感じたことを教えてください。

自分の教科に対する考えや、教育への考え方を、学生同士や現場の教師、そして生徒との関わりの中で考える、大学生活の中で一番有意義な経験だった。

教員の一人として学校現場で体験することで、普段の授業では味わえない実践的な学びや発見が多くあった。

絶対に教師になる！と改めて思えた大学生活の中で1番の経験でした。失敗だらけでしたが、これをバネにもっと成長できると感じる事ができると感じた。

1、2年次までの講義や観察実習とは違い、実際に子どもを目の前にして1人で授業をするのはとても緊張しましたが、子どもの反応を見たり、気づきや問いを授業に生かす方法を肌で感じ、学ぶことができました。

授業を行う難しさや学級経営の大変さなどを感じました。また、1日1日の達成感ややりがいというのを物凄く感じます。

学級経営での声かけの仕方の難しさを感じました。授業の想定しているものとのギャップ。

Q.2 附属学校実習に向けて、実習開始までにどのようなことを意識しておくと思いいますか。

一人の教師として振る舞うこと、子どもの成長を助けるような言動や授業を心がけること。

自分がなぜ教育実習をするのかの意味と、どんな実習にしたいかを意識する。

事前準備や計画性などは当然のこととして、子どもとどう接するか、自分の立ち位置やスタンスなどを決めておくことが重要だと思います。

模擬授業の回数をこなして、タイムマネジメントや予想していない答えに対応できるようにしておく。同じクラスの実習生と交流して仲を深めておくことで、困ったことにお互い支え合って乗り越えることができる。

意識しておくべきことは、「言葉遣い」「あいさつ」「表情」だと思います。子どもは先生の姿をよく見えています。

とにかく楽しもう！って思うことが1番大事かと思っています。重荷に感じる時ついで！あとは授業の準備は入念に！準備すらも楽しむ心持ちで！

